

後援会だより

第26号

2018年9月28日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○ごあいさつ	○平成30年度後援会総会（第16回）	3
後援会会長	○就職状況	4
法文学部長（後援会顧問）	○平成29年度決算・平成30年度予算	6
○ゼミ紹介	○平成30年度後援会役員一覧	6
法経社会学科（地域計画論ゼミ）		

後援会会長ごあいさつ

法文学部後援会会長 堂路 温幸



会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動につきましてご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年度に引き続き後援会会長に推挙され、2018年度皆さまと共に法文学部の学生の支援のお手伝いをさせていただくこととなりました。改めてその責任を感じておりますが、微力ながら、後援会の役員、事務局の皆様方とともに精一杯務めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去る7月7日に予定しておりました後援会総会は、豪雨のため安全面に配慮したうえで中止させていただきました。刻々と変化する状況の中で当日の判断となり、出席を予定していただいていた多数の会員の皆様には多大なご迷惑とご心配をお掛けいたしましたこと、心からお詫び申し上げます。

総会では、年間の実績報告、活動計画や予算・決算にかかる議事についてご審議いただくほか、学生の皆さんの活動体験報告、さらに懇親会も予定しており、教職員の皆さまを含めて貴重な情報交換の機会となることを期待しておりましただけに、大変残念でございました。

法文学部後援会は、今年度におきましても学生の皆様が充実したキャンパスライフを過ごせるよう

様々な支援を行うこととしており、皆さまからお預かりしました大切な後援会費を有意義に活用してまいります。会員の皆様には、後援会だより等を通じて情報を発信していきたいと考えておりますので、ご意見、ご要望などございましたら、お届けいただけますと幸いです。

さて、今年、西日本や東海の各地に甚大な被害をもたらした西日本豪雨は記憶に新しいところですが、東日本大震災、熊本地震やその他多くの災害を含め復興に向けた取り組みが行われているものの、被災された方々にとっては辛く厳しい生活が続いていることは私たちの胸を苦しめているところです。異常気象によるこのような自然災害の多発や不安定な国際情勢などこれから未来に向かって困難な状況も予想されますが、若き学生の皆様には、この鹿児島大学での学業、学生生活を通じて、社会に貢献していくための「力」を養って大きく羽ばたいて欲しいと願ってやみません。

学生の皆様にとって意義ある時間づくりの支援の輪が広がりますよう期待しております。



法文学部長ごあいさつ

法文学部長（後援会顧問） 高津 孝

7月7日（土）に開催予定であった今年度の後援会総会は、当日になって鹿児島市に大雨警報が出されたため、中止とせざるを得ませんでした。来訪をご予定だった保護者の皆様、すでに鹿児島に到着されていた保護者の皆様にはご連絡が遅れたこととお詫び申し上げます。



後援会総会は大事な会務報告の場ですが、その後に行われる懇親会も大学にとっては重要なものとなります。お子さんが大学生になると、入学式、卒業式など特別の事情でもない限り、保護者が大学に来られることはほとんどありません。すなわち、大学が直接、保護者の皆様から意見を伺う機会は現実に非常に少ないのです。その意味で、後援会後の懇親会は、参加される保護者も多く、直接保護者の方々から、大学への意見をうかがえる良い機会であり、保護者の皆様にとっても、お子さんの大学生活について疑問をぶつけていただく良い機会です。さらに、大学にとっては大学の抱える問題点を外部の視点から把握するのに役立ちます。以前、懇親会の場で、わたくしのゼミ生の保護者の方から大学生活に関する相談を受けてはじめて学生さんの抱える問題に気づいたこともありました。来年度は是非天候に恵まれ、後援会総会、懇親会の場で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

このほか、鹿児島大学では、学生や保護者からの相談に積極的に答えるための組織を作っております。もし、お子さんが精神的問題や病気に悩んでおられる場合、是非、鹿児島大学内の保健管理センターを訪ねるようアドバイスをおねがいします。また、「学生何でも相談室」も大学内に設置されており、大学生活に関することであれば、気軽になんでも相談できる体制を整えております。お子さんたちに有意義な4年間を送っていただくよう大学は努力しておりますので、問題があった場合、こうした施設のご利用をご検討ください。

ゼミ紹介 ～経済コース(地域計画論ゼミ)～

法経社会学科教授 北崎 浩嗣

法経社会学科の経済コースのゼミは、コース必修科目として、2年生前期から3年生後期までの2年間（計4期・8単位）開講され、専門分野の最も重要な科目として位置付けられています。少人数教育の効果を担保するために、原則として1学年7名（29年度は8名）の受講制限があります。経済コースの担当教員は、ゼミ活動の教育効果が就活や採用試験に直結するために、ゼミ教育には多大なエネルギーを注ぎ、その運営には知恵を絞ってアイデアを練っているところです。

私も法文学部に赴任して30年が経ち、その間200名弱のゼミ生が卒業していきましたが、ゼミ生の個性に応じた十分な指導ができたのか、いまだに忸怩たる思いでいます。今回紙面を頂戴しましたので、ゼミ活動に指導教員がどれだけ腐心しているかということをご理解いただきたく、昨年度のゼミ活動を紹介します。毎週のゼミの時間（金曜日5時限目）では、現安倍政権の重要政策「地方創生」と「農政改革」をとりあげ、荒幡克己著『減反廃止』と諏訪雄三『地方創生を考える』を輪読し、議論しました。また、9月恒例のゼミ合宿では、熊本県で販売額が増大している元気な直売所でのヒアリングを実施しました。

もう一つ何かプログラムが欲しいなと考えているときに、九州経済産業局から「九州地域ブランド総選挙」を開催するので鹿児島県代表として参加して欲しくないかという依頼がきました。内容は、地域団体商標（地域名+商品名で構成され、10年間独占使用できる商標）を有する各県の地域ブランドを、大学生の視点でその魅力を情報発信し、今後のビジネスプランを企画するというものです。1チーム3名で、12月から1月の2か月間で現地調査、毎日1回に限られるインスタグラムでの情報発信、そこでのいいね！の数とビジネスプランをもとに、1次審査があり、3月9日に大分で最終審査がありました。九州7県から15チームが参加し、わがチームは「川辺仏壇」をテーマに、運よく最終選考の10チームに選ばれましたが、総合4位（優勝は九大の芸術工学研究院チーム）という結果で、表彰台には届きませんでした。

このプログラムをゼミ活動に利用する場合に、ゼミ生が積極的に参加するだろうか、3名をどう

やって決めるのか、といった大問題もありましたが、ゼミ全員でこの企画に参加し、代表の3名がプレゼンするのだということを確認して、大きな軌轢なく実施することができました。私からのアドバイスも最小限に控え、ゼミ生の自発的な取組に期待しました。入賞は逸しましたが、南日本新聞も2回ほどこの取組を掲載してくれましたし、大きな舞台でプレゼンした学生には大きな自信になったようです。また、優勝した九大チームのプレゼン力を見習わねばと、ゼミ生が話してくれたことも印象的でした。





九州地域ブランド 総選挙

鹿大生が探る！川辺仏壇の魅力

★★あなたの『いいね！』で応援してください★★

【九州地域ブランド総選挙 大学生によるわがまちブランドPRコンテスト～地元団体とともに地域ブランドの魅力を発掘！発信！発展！～】

Instagram®の公式アカウントにて、川辺仏壇の魅力について発信しています！

大学生の視点で伝統工芸の匠の技にどう迫るのか…！？ぜひご覧いただき、『フォロー＆いいね！』で応援をお願いします！

Instagram®
アカウント

@kawanabebutu
dan1201

12月1日より
投稿スタート！

鹿児島大学法文学部
法経社会学科 北崎ゼミ

担当教員 北崎 浩嗣
TEL 080-1706-5874

写真上段：表彰式後の全体写真

写真下段：取組に利用したゼミ生作成のチラシ

平成30年度後援会総会(第16回)

法文学部後援会第16回総会は、平成30年7月7日(土)に59名の保護者の方々にご出席いただき、開催する予定でした。しかし、類を見ない大雨により、鹿児島県はもとより西日本の広範囲にわたって警報が発令される異常事態となったことから、参加者のみなさまの安全確保を優先し、急きよ中止の措置を取らせていただきました。出席予定でいらっしゃった保護者の方々には、総会当日の中止連絡となり、多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。

第16回総会におきましては、①役員の選出、②平成29年度事業報告(案)、③平成29年度決算および監査報告、④平成30年度事業計画(案)、⑤平成30年度予算(案)について審議を行い、承認をいただく予定でございました。そのため、総会に出席予定であった保護者の方々に、(1)総会資料、(2)議事についての説明の2点の資料を郵送し、(3)議事承認の同意ハガキをご返送いただく形をもって、承認とさせていただくことといたしました。その結果、45名の保護者の方々から同意のハガキをご返送いただきました。これは、総会出席予定者59名の過半数を超えており、後援会会則第12条を満たしております。

返送用のハガキには、皆様からのご意見欄を設けさせていただきました。そこには、「総会中止、残念でした。来年も日程が合えば参加させていただきます。」「年1回とはいえ、関わりをありがとうございました事に感謝です。」「総会の資料はとても丁寧で先生方の熱心さがわかりました。」「先生方も暑い中ゼミ等で忙しいことと思います。ご自愛ください。」といった、温かいお言葉をたくさん頂戴いたしました。保護者の皆様のご理解・ご協力があった法文学部後援会であることを改めて感じ、また、このようなお言葉をいただけましたこと、関係者一同感謝しております。

最後になりますが、この度の豪雨により被害を受けられた方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆さまが一刻でも早く日常に戻れますよう、鹿児島よりお祈り申し上げます。

今年3月に卒業した平成29年度卒業生の就職率は、前年度比0.5ポイント減の92.8%でしたが、平成25年度以降は90%以上の高い水準を維持しており、高止まりの傾向にあるといえます（表1）。

また民間企業・公務員の比率は、民間74.8%69.9、公務員25.2%30.1となりました（表2）。前年度と比較して公務員が4.9ポイント増加しており、公務員への採用が増加しています。また民間の就職先は前年度と同様、金融業への就職者が最多で、以下小売業、情報通信業、保険業と、こちらもほぼ例年通りの傾向となっています（表4）。

就職地域別では鹿児島県内が48.8%、鹿児島県を除く九州が30.1%で全体の約8割を占め、多くの学生が出身地に近い地域で就職している状況がうかがえます（表3）。ちなみに、平成29年度卒業生の大多数を占める平成26年度入学者のデータでは、鹿児島出身者が58.2%、鹿児島県を除く九州出身者が37.6%を占めていますので、若干の流出傾向があることは否定できません。なお、九州以外の就職地域として関東が14.6%を占め、それ以外の地域への就職者は非常に少なくなっています。

本年度も全体として就職状況は良く、しかも公務員の採用も増加しています。その結果、「公務員・教員採用試験等受験希望」を理由として就職しない卒業生が半減（2.7%）しました。しかし大学卒業生の就職3年以内の離職率は32%（全国、厚生労働省調べ）に達し、鹿児島県内では例年全国平均を上回る値が報告されています（鹿児島労働局調べ）。公務員志望による非就業にせよ、早期離職にせよ、背景としてミスマッチングが存在することは想像に難くありません。

学生諸君には、大学での勉強や研究、学生生活を通して自分のキャリア形成についてじっくり考えてほしいと願っています。その上で就職委員会は、今後とも後援会のご支援を賜りながら、就職活動支援や就職ガイダンスの開催など、全学の就職支援センターと連携して学生のサポートに当たりたいと考えています。

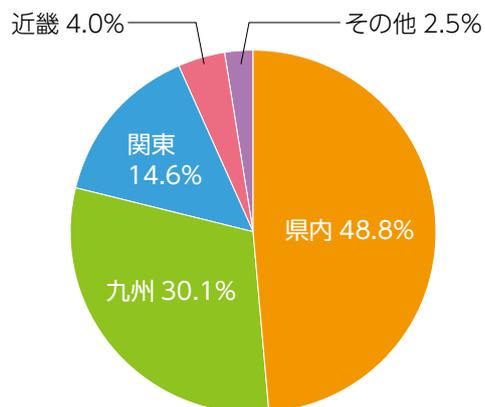
1. 平成29年度卒業生の就職率 (5月1日現在)

学 科	法 政 策 学 科	経 済 情 報 学 科	人 文 学 科	合 計
就職希望者数	82人	133人	132人	347人
就 職 者 数	77人	124人	121人	322人
就 職 率	93.9%	93.2%	91.7%	92.8%

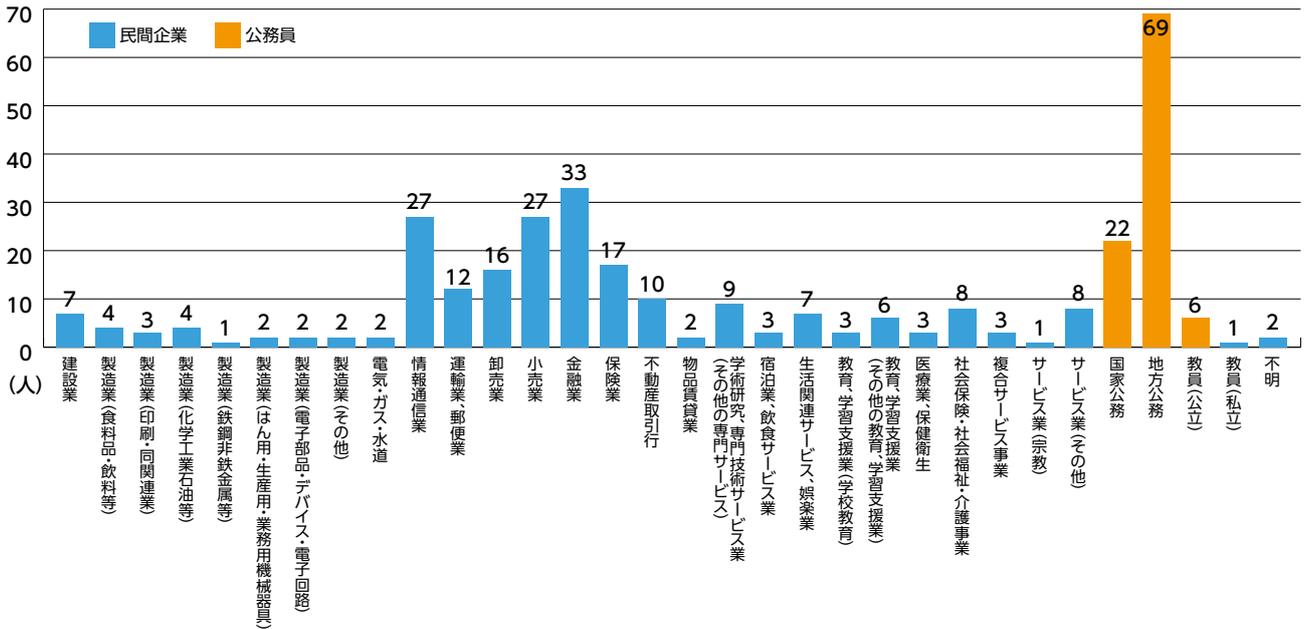
2. 平成29年度卒業生の公民別就職状況 (5月1日現在)

学 科	法 政 策 学 科		経 済 情 報 学 科		人 文 学 科		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
公 務 員	20人	15人	18人	11人	8人	25人	46人	51人
民 間 企 業	23人	19人	39人	56人	32人	56人	94人	131人
合 計	77人		124人		121人		322人	

3. 平成29年度卒業生の地域別就職状況



4. 平成29年度就職者数(322人)の産業種別内訳



平成 29 年度決算・平成 30 年度予算

【平成29年度 法文学部後援会決算】

会計期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日（単位：円）

		予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	概 要
収入項目	① 正会員会費(A+B-C)	5,455,000	6,175,000	720,000	正会員数×5,000とほぼ一致
	A 前年度返還準備金	12,180,000	12,180,000	0	前年度決算の返還準備金と一致
	B 本年度振込額	4,775,000	6,205,000	1,430,000	平成29年度加入会員数×20,000円(大学院生は10,000円 or 15,000円)
	C 本年度返還準備金(※)	11,500,000	12,210,000	710,000	本年度解散があった場合にも返還に支障のない最低準備金
	② 特別会員会費	520,000	520,000	0	教職員加入者数×8,000円
③ 賛助会員会費	0	30,000	30,000	同窓会員会費	
④ 雑収入	200,000	207,467	7,467	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息	
⑤ 前年度執行残余	2,184,669	2,184,669	0	前年度決算の執行残余金額と一致	
(1) 本年度執行可能額合計(①+②+③+④+⑤)	8,359,669	9,117,136	757,467	本年度支出しても次年度以降の返還に支障のない金額	
支出項目	⑥ 事業費(a+b+c+d+e)	5,758,692	3,908,824	△ 1,849,868	
	a 学生の就職環境に関する事業	1,573,688	1,241,068	△ 332,620	就職支援室運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	2,218,964	948,584	△ 1,270,380	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
	c 学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	35,000	0	学生レクリエーション行事経費補助等
	d 学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	1,081,040	886,430	△ 194,610	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
	e その他本会の目的を達成するために必要な事業	850,000	797,742	△ 52,258	保護者と教員の懇談会、後援会日より印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	⑦ 事務運営費	1,258,000	1,172,713	△ 85,287	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑧ 会議費	300,000	358,480	58,480	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	⑨ 予備費	200,000	12,576	△ 187,424	
	(2) 合計(⑥+⑦+⑧+⑨)	7,516,692	5,452,593	△ 2,064,099	本年度執行金額
(3) 本年度執行残余(1)-(2)	842,977	3,664,543	2,821,566	期末執行残余	
(4) 本年度執行可能額合計(2)+(3)	8,359,669	9,117,136	757,467		
(5) 次年度繰越額(C+(3))	12,342,977	15,874,543	3,531,566	期末通帳残高と一致するべき金額	

※返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

【平成30年度 法文学部後援会予算】

会計期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日（単位：円）

		30年度予算	29年度予算	前年度差額	概要
収入項目	① 正会員会費(A+B-C)	5,575,000	5,455,000	120,000	正会員数×5,000とほぼ一致
	A 前年度返還準備金	12,210,000	12,180,000	30,000	前年度決算の返還準備金と一致
	B 本年度振込額(※1)	4,865,000	4,775,000	90,000	平成30年度加入会員見込み数×20,000円(大学院生は10,000円 or 15,000円)
	C 本年度返還準備金(※2)	11,500,000	11,500,000	0	本年度解散があった場合にも問題のない最低準備額
	② 特別会員会費	504,000	520,000	△ 16,000	教職員加入者数×8,000円
③ 賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費	
④ 雑収入	200,000	200,000	0	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から一部徴収)、預金利息	
⑤ 前年度執行残余	3,364,543	2,184,669	1,179,874	前年度決算の執行残余金額と一致	
(1) 本年度執行可能額合計(①+②+③+④+⑤)	9,943,543	8,359,669	1,583,874	本年度支出しても次年度以降の突発的な返還に支障の出ない金額	
支出項目	⑥ 事業費(a+b+c+d+e)	5,566,000	5,758,692	△ 192,692	
	a 学生の就職環境に関する事業	1,518,000	1,573,688	△ 55,688	就職支援室運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	1,952,000	2,218,964	△ 266,964	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
	c 学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	35,000	0	学生レクリエーション行事経費補助等
	d 学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	1,161,000	1,081,040	79,960	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
	e その他本会の目的を達成するために必要な事業	900,000	850,000	50,000	保護者と教員の懇談会、後援会日より印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	⑦ 事務運営費	1,250,000	1,258,000	△ 8,000	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑧ 会議費	350,000	300,000	50,000	懇談会経費、後援会総会のお茶代等
	⑨ 予備費	200,000	200,000	0	
	(2) 合計(⑥+⑦+⑧+⑨)	7,366,000	7,516,692	△ 150,692	本年度執行予定金額
(3) 本年度執行残余(1)-(2)	2,577,543	842,977	1,734,566	期末予定執行残余	
(4) 本年度執行可能額合計(2)+(3)	9,943,543	8,359,669	1,583,874		
(5) 次年度繰越額(C+(3))	14,077,543	12,342,977	1,734,566	期末通帳残高と一致するべき金額	

※1 予算資料作成時点での既知の数値を活用。期中に加入があった学生の会費については前年度執行残余の活用によって調整する。

※2 返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

平成 30 年度後援会役員一覧

会 長：堂路温幸	副 会 長：荒田明彦	理 事〔教 員〕：
顧 問：高津 孝	常任理事：北崎浩嗣	(法経社会学科) 志田惣一、農中 至
理 事〔保護者・社会人学生(本人)〕：		(人文学科) スティーブン・コーダ、菅野康太
(経済情報学科) 堂路温幸		(臨床心理学研究科) 宇都宮敦浩
(法経社会学科) 南 芳浩		監 査：安永俊文、澤田成章
(人文学科) 末吉公子、竹内喜恵		監 事：大園久裕
(人文社会科学研究科) 寿 洋一郎		
(臨床心理学研究科) 荒田明彦		

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ <http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/>